



2026 年 9 月 14 日

報道機関各社様

文理を超えた人材が理系産業を変える、札幌発「理系 2.0」人材始動 ― 産学連携により次世代人材育成モデルを構築します ―

札幌市立大学（以下、「本学」という。）は 2026 年、日本アイ・ビー・エム株式会社（以下、「日本 IBM」という。）や市内企業（岩田地崎建設㈱、丸彦渡辺建設㈱、（一社）さっぽろイノベーションラボ）と連携して「SAPP_RO 文理越境人材創造プロジェクト」を開始します。

札幌市では GX・AI 活用や都市 DX が進む一方、建設業の「2030 年問題」、情報通信分野の人材不足、若年層の道外流出などが深刻化しています。加えて、除排雪や防災など積雪寒冷地特有の都市課題も山積しています。これらの課題に向き合うため、「新しく生み出された技術の社会への実装が進まない」という構造的問題を改善していく必要があると考えます。今後の地域社会には技術を開発する人材だけでなく、技術と社会、人と組織をつなぎ、地域への実装を推進する人材が求められています。本事業は**従来の理系人材育成とは一線を画し、新しいアプローチで課題解決を目指す「文理の枠組みを超えた次世代型・理系 2.0 人材」育成モデルの構築**に挑戦するものです。

つきましては、本学の活動及び当該取組の周知についてよろしくお願い申し上げます。

■ 事業概要

本学が主体となり産学連携による「SAPP_RO 越境共創実装ラボ」を設置。本ラボでは、学生が建設・都市開発・情報通信の各分野において、利用者や現場で働く人の視点から課題を分析することを起点に、企画・設計などの上流工程から現場での実践まで、実務に直結した活動を担います。具体的には、企業・行政と協働しながら、課題発見、試作、検証、改善、実装というサイクルを繰り返し実行します。**本ラボが育成する人材は、従来の文系・理系という区別にとらわれず、建築、情報、AI、UX デザインにわたる複合的な知見を持ち、技術を社会に実装させる役割を担う人材です。**本学がこれまでに積み重ねてきた文理越境型教育を土台として、新たな人材育成モデルの構築を目指します。

事業名称：SAPP_RO 文理越境人材創造プロジェクト

実施期間：2026 年度から 2027 年度末まで（補助金事業採択期間）

連携企業：日本 IBM、岩田地崎建設㈱、丸彦渡辺建設㈱、（一社）さっぽろイノベーションラボ

■ 期待される効果

本事業の目的は人材育成だけではありません。目指すのは、これからの社会に必要な「理系人材のあり方そのものをアップデートすること」です。技術と現場をつなぐ「理系 2.0」人材を継続的に育成し、建設業や情報通信業における人材不足の解消、DX の実効性向上、若年層の地域定着促進を図ります。さらに、**札幌で構築したモデルを産学官で共有し、全国へ展開可能な新たな地域人材創出モデルとなることを目指します。**

■ 事業予算について

2026 年度および 2027 年度の各年度 300 万円（2 か年度の予算額合計：600 万円）

※札幌市補助金「大学と民間企業等との連携による公益的事業の推進補助金」を活用

取材に関するお問い合わせ先

札幌市立大学 デザイン学部 学部長（教授） 齊藤 雅也

Tel：011-592-2631 e-mail：msaito@scu.ac.jp

事務局 学生課 課長補佐 高橋嗣仁

Tel：011-592-2371 e-mail：gakusei@scu.ac.jp

住所：〒005-0864 札幌市南区芸術の森 1 丁目

(別添資料)

■ 本学が提案する「理系 2.0」人材とは
「つくる理系」から「社会を動かす理系」へ

本学デザイン学部・研究科が提案する「理系 2.0」とは、建築・情報分野の専門性にデザイン思考と共創力を融合し、技術を社会に実装させる役割を担う人材です。

従来の理系人材	本学が提案する「理系 2.0」人材
・ 専門技術の開発・高度化を担う ・ 個別分野の最適化を推進する	・ 技術と現場を接続する ・ 利用者視点から課題を発見する ・ 異分野を横断して協働する ・ 技術の社会実装と定着を支援する

■ プロジェクトの特徴

「SAPPORO 越境共創実装ラボ」では学生が企業や行政の実際の現場に参画し、UX（ユーザー体験）の視点から課題を分析します。その上で企業技術者や行政担当者と協働し、試作・検証・改善を繰り返しながら実装につなげます。また、課題発見から試作、現場検証までを短期間で実施する「1-DAY 集中プロトタイピング」を展開し実践を通じた学びと社会実装を加速します。

なお、日本 IBM の協力により、AI、データ活用、業務変革に関する知見を提供し、学生が社会課題をテクノロジーで解決するための実践的な学びを支援します。具体的には、生成 AI やデータ分析を活用した課題発見・仮説構築、プロトタイプ作成、業務プロセス改善の考え方を共有するとともに、企業・行政・大学をつなぐ共創の場づくりに貢献します。これにより、単なる技術習得にとどまらず、現場に根ざした実装力を備えた「理系 2.0」人材の育成を後押しします。

■ 令和9年度までの数値目標（KPI）

- ・1-DAY 集中プロトタイピング参加学生数：2 年間で延べ 70 名以上
- ・企業課題に基づく試作・現場実証：5 件以上
- ・理系産業への理解・就職意欲が向上した学生割合：60%以上
- ・札幌市内理系産業への就職割合：29.8%から 40%以上へ向上

■ 事業終了後の展望

「SAPPRO 越境共創実装ラボ」の常設化、既存カリキュラムへの組み込みや共同研究への発展、市内企業への水平展開を進めます。将来的には、高校生や他大学生にも対象を広げ、札幌発の文理越境型人材育成モデルとして発展させる構想です。

■ 事業概念図

